

月の館

信濃観月文庫

通信

おみ
麻績村
発行 / 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

TEL・FAX (0263)67-3933

第21号

大空は梅のにほひにかすみつつ

くもりもはてぬ春の夜の月

藤原定家

感謝

麻績村
観月苑
三



平成二十三年九月九日

窪田孟恒



私と俳句

一月のおもいで

水上 孤城

私が麻績村をはじめ訪れたのは高校二年の時である。秋のバスハイクで聖湖まで行った。その帰り、車窓を眺めていると大きな月が昇り始めている。他の同級生は月になど関心がなく、フォークソングやファッションの話に夢中であつた。この大きな月をなんとか俳句にしたい。私は月を見つめた。「何だ、月なんか眺めてさ、歌人か俳人のつもりかよー」そんな揶揄を背後から聞いた。ペンを取り出し手帳を開く。上五・中七までは書けたが下五が思い浮かばぬ。この年の夏休みに俳句の真似事を開始したばかり。見たこと、感じたことを手当たり次第並べているだけで、とても作品とは呼べないものばかりであつた。そしてこの麻績の月はどうとう詠めずに終わった。

その二、三日後に稲刈りがはじまる。両親が小農を営んでいるため、稲刈りくらいは手伝わなければならなかつた。まだ稲刈機の導入以前のことである。すべて手作業のため、稲束を稲架に掛け終わる頃には月が昇っていた。稲束の香りと月光と。材料は揃っている。かなり稚拙な五七五を並べた覚えがある。しかし作品としては残っていない。俳句は五七五という型に嵌め込めばそれなりにはできるため、楽な文芸のように思われがちだが、よい句を得るのはそう簡単ではない。まずは約束事を覚えねばならぬ。次に、季語を覚え、切字の効用を考え、句全体のリズム、響き、といったことを総合的に考えながら、説明や報告にならぬように一句を構築しなくてはならない。もっとも、このようなことが分かったのは後年のことである。松尾芭蕉も松島で月を詠んでいない。「月を詠む」のは存外むずかしい、というのがその頃の私の感想であつた。

月を詠んで一応の句ができたのはいつ頃のことであつたらう。第一句集『交響』には「昭和五十三年以前」の項に、
背の高き緋歩むや渦の月
孤城
大小の島引き寄せし良夜かな
青林檎耳朶色の月のぼる
と
といった句を収めている。一句目は、就職をして新潟市へ赴任した十九歳の時のもの。二句目は、二十七歳の時、俳句大会のため四国へ行った折の作。俳句の骨格ができつつあつたように思う。三句目はその翌年の夏に詠んだ。麻績村で月を詠もうとしてから約十年、ようやく一定の成果を得るに至つたのである。師事をした飯田龍太の「満月に目をみひらいて花こぶし」は、私の俳句開眼の一句である。満月に目をみひらく、という表現の初々しさ、清明さ。この句は今も一つの目標となっている。
海外旅行でもヨーロッパを



名月や煙はひ行く水の上

嵐雪

名月や兎のわたる諏訪の湖

蕪村

名月を取てくれろと泣く子かな

一茶

はじめさまざまな国で月を見た。わけても一九九〇年に俳人・石寒太さんや作家・畑山博さんたちと行った、中国・桂林での十六夜の月は忘れがたい。中国民航の飛行機を出て、タラップを踏んだとたん、あたりは月の海のようにであった。暗い桂林の町。モクセイ科の名の由来となった桂樹に月の光が降りそそぐ。花をつけた桂樹の甘い香りの中で大きな月をめめた。

ところで、古人は名月をどのようにに詠んでいるのであるうか。歳時記を開けば、

名月や池をめぐりて夜もすがら

芭蕉

名月や畳の上に松の影

其角

月のまはり真空にして月見草

〃

春の月水の音して上りけり

〃

木をのぼる水こそ清し夏の月

〃

月見れば月の引力朴の花

〃

これらは、句集『静かな水』に収められたもののごく一部である。科学の知識にほどよい詩情が加わった作品群は、今までの月の例句を塗りかえるのではないか。そんな期待が持てる。私も刺激を受けこの人とは異なる角度から、月の新しい句をめざしたいと思っている。

今から十年前に、信濃観月苑のお月見俳句大会に選者として出席した。句会終了後、選者の玉木春夫さん、中島畦雨さんをはじめ、参加された皆さんと月の出を待った。現

れた月はいくらか赤みを帯びている。そののち雲に隠れてしまったが、酒の酔いも手伝って気分は上々であった。その日の俳句大会の小学生の部で、月の句ではないが、一年生の女の子の作った「なの花もわたしもげんきせんせいも」という句が印象に残った。作った少女ももう妙齡となつていよう。もしかしたら月を仰ぎ見て、五七五を並べているかも知れない。

水上孤城略歴



一九五〇年長野市生まれ。一九六七年より作句。

飯田龍太、加藤楸邨、矢島渚男に師事。

二〇〇一年第十六回俳壇賞受賞。

現在「梟」同人「長野雲母の会」所属。

長野市在住。

句集「交響」「水の歌」

著書「矢島渚男俳句散歩」など

たち かわ よし お

立川 叔男

5/26 13:30 ~ 15:30

古楽コンサート

場所／月の館大寄せの間



現代はどんな状況でも音楽が聞ける。車を運転しながらでも、地下鉄の轟音の中でも、またドームをうめ尽くす何万人の人達と共にでも音楽を聞くことができる。

でもどれだけ「聞いている」だろうか？

たとえば農作業中、うぐいすのさえずりがしても、それはトラクターの音に掻き消されてしまう。けれどもエンジンを止めてひと休みする時、うぐいすのさえずりに耳を傾け、自分の心の中の穏やかさ、優しさに気づく。

いにしへの音楽にはそんな響きがあります。「信濃観月苑」は、それを体験するのに最高の時空を創り出してくれるでしょう。

曲目予定

輝ける星、聖母マリア頌歌／日本に伝えられたと思われる聖歌

森の妖精／F. クープラン

さらば、愛しき人よ／セファルデイ 他

※楽器コンディション等により、内容変更します。

楽器紹介

南蛮渡来ビウエラ 信長の時代に日本に最初にやって来た西洋楽器。指ではじいて弾くタイプと弓で弾くタイプとある。

キタローネ リュート属最大の楽器で 2m 近い。複雑な調律を採る。14 ~ 20 弦。

ハーディガーディ バグパイプの弦楽器版。形はギター、リュート、ヴァイオリン型など色々ある。3 ~ 6 弦。10 世紀 ~ 現代も民族音楽で使われる。

リュートギター 形はリュートだがギターの調律を採る。特にシューベルト時代のヴィーンで人気があった。19 世紀。



たちかわ よし お

立川 叔男プロフィール

13 歳よりギターを始める。芳志戸幹雄氏に師事。スペイン政府の奨学金により、サンチャゴ・デ・コムポステラ マスタークラス、及びオスカル エスプラ音楽院に学ぶ。J・トマス、M・バルベラ両氏に師事。リュートを D・ミンキン氏に師事。ルネサンスギター、オルファリオン、ギターラバテンテ、コラッシオーネ、アンジェリクの日本初の再現演奏。リュートによるバッハ無伴奏チェロ組曲全曲及び、無伴奏ヴァイオリンソナタとパルティータ全曲演奏。NHK - FM、TBS テレビドキュメントなどに出演。

とおやま のぞみ

遠山 望プロフィール

1975 年大町市出身。国立音楽大学附属音楽高校、及び同大学器楽学科サクソフォン専攻卒業。現在、長野県各地に於いて、演奏、レッスン、吹奏楽団・合唱団指導を行い、近年は東京へも活動の場を広げている。

サクソフォンを石渡悠史、下地啓二、指揮法を伊藤栄一、声楽を及川愼の各氏に師事。

女声合唱団アンサンブル・ピュア（大町市）常任指揮者。

東京都町田市立金井中学校吹奏楽部コーチ。

やまかわ たく や

山川 拓也プロフィール

松本市出身。5 歳よりピアノを始める。武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。

ピアノを茅野元子、小林香織各氏に師事。

大学在学中は、ピアノを宮澤晴子氏、指揮法を谷口雄資氏、作曲法を坂幸也氏に師事。

ピアノソロだけにとらわれず、他楽器とのセッション等も数多く行っている。

卒業後は、松本市内を中心に、後進の指導や演奏活動に活躍している。

秋の楽しい音楽会みんなで歌いましょう！ 合唱指導とテノール独唱

9/9

9/23

14:00

～ 16:00

場所／月の館大寄せの間

講師●テノール独唱／しまづ かずへい島津 和平

ピアノ伴奏／せきざき ちなみ関崎 千奈美

昨年はお世話になりました。とても素晴らしい場所で松韻に浸りながら楽しい時を過ごさせていただきました。

皆さんが本当に音楽が好きということが伝わってきたように思います。

さて、今回は2回の開催を予定しているということで、とても楽しみにしております。

そこで内容の予告をこの紙面をお借りして紹介させていただきたいと思います。



第1回「高い声ができるようにしたい」

よくこんな声を皆さんから聞きます。学生時代に絞り出すようにして声を出すことがトラウマのようになっていないのでしょうか。

声は出すのではなく、響かすことがまず大切になるかと私は思います。体のどこに自分の声を共鳴させるか。この響かせるポイントが分かると、声は見違えるようになります。このことを少しやってみましょう。

声の出やすい曲を何曲か歌ってみましょう。そこで、響かせるコツをつかんでみましょう。

最後に数曲私が独唱をします。お楽しみに。

第2回「息をうまく使ってみましょう」

歌う上で大切な事は、どう息を吸ったらよいかということです。無駄なく無理なく息を使って歌を歌いたいものです。息が流れるところに言葉をのせる。こんなイメージで歌えたらよいのです。

そして、詞が聞いている人に正しく伝わるか、これが歌の命です。何を伝えようとしているのかが分からなければ、歌の存在意味がありません。そんなことも少しやってみようと思います。

2回通して同じ曲をやって、2回目は仕上げるつもりでやってみましょう。

最後に数曲私が独唱をします。どんな曲になるか楽しみにして下さい。

しまづ かずへい

島津 和平プロフィール

幼少より歌が好き。高校生の時に音楽の教師になる事を決意、この時より正式に音楽の基礎勉強を始める。信大教育学部の音楽科に入学。卒業後、主に県下の中学校の音楽教師として活躍する。

3年前に定年退職し、アマチュアコーラスに所属したり様々な音楽活動を続けている。平成初年ころより、元芸大教授の岡部多喜子先生に師事、主にイタリア歌曲、オペラアリア、日本歌曲を研鑽している。

とお やま のぞみ
遠山 望

8/26

14:30

～ 16:30

サクソフォンコンサート

場所／月の館大寄せの間



催し物 案内

第13回曼陀羅の里 お月見俳句大会 10月20日 土

13:00～16:00
当日句 2句（自由題）
会費／1,500円
（投句料・聴講料・懇親会費）
選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子
「梟」同人・水上孤城

第20回月の里俳句作品募集

募集締切 8月31日 金

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1,000円
小学3年生～中学生 2句まで 投句料／無料
選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
「黒姫」主宰・神田北童
「岳」編集長・小林貴子
「梟」同人・水上孤城

第19回紅葉がりの茶会 10月28日 日

受付／10:00（受付終了14:00）
定員／150名 会費／2,500円
薄茶席 耕月軒
薄茶席 観月堂（立札）
点心席 月の館大寄せの間

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
時間 10:00～15:30 終了時間は変わることがあります。
会費／600円
点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

- | | | |
|---------|----------------|----------------|
| 4月29日 日 | 武者小路千家 | 亀の香り茶稽古の会（松本市） |
| 5月20日 日 | 裏千家 | 島津宗純社中（長野市） |
| 5月27日 日 | 表千家 | 金井宗美社中清流会（筑北村） |
| 6月17日 日 | 裏千家 | 小山宗道社中（長野市） |
| 7月15日 日 | 裏千家 | 山中宗艶社中（長野市） |
| 7月22日 日 | 石州流 | 芳香庵松悠（筑北村） |
| 8月19日 日 | 裏千家 | 公民館茶道クラブ（麻績村） |
| 9月16日 日 | 武者小路千家
（予定） | 亀の香り茶稽古の会（松本市） |



観月苑文化講座

参加者募集中

山口勝人写仏教室

【第1土曜日】

14:00～16:00

会費／前期・後期とも
各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

御詠歌教室

【第1水曜日】

13:30～15:30

会費／前期・後期とも
各5,000円

講師／法善寺大屋明子

松尾芭蕉を読む

【第3土曜日】

10:00～11:30

会費／月1,000円
（前期・後期とも
各6,000円）

講師／「岳」同人窪田英治

やさしい着付教室

【第1・第3土曜日】

第1土／10:00～12:00

第3土／13:30～15:30

会費／月2,600円
（12回シリーズ）

講師／前結び美装流助教授
浅野和子

ギャラリー展

写仏教室作品展

ウズベキスタンの人々の暮らし展と山田文作品展

4月7日**土** ~ 4月30日**月**

出展／山口勝人 写仏教室受講者 山田文

工房山窩 木作品展

5月2日**水** ~ 5月13日**日**

出展／並木諭

さつき会作品展 (和紙・油絵・書・工芸品など)

5月16日**水** ~ 5月27日**日**

出展／西澤康晴ほか さつき会一同

春の野草盆栽展

(外待合にて実施)

4月16日**月** ~ 4月30日**月**

出展／塚原ふじ子ほか

藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月1日**金** ~ 6月3日**日**

出展／橋詰清貫

絵の里づくり絵画展・アトリエどんぐり作品展

6月9日**土** ~ 6月30日**土**

出展／窪田明仁・久保田優子ほか

安藤ひかり作品展

7月4日**水** ~ 7月29日**日**

出展／安藤ひかり

江間廣作陶展

8月5日**日** ~ 8月23日**木**

出展／江間廣

窪田孟恒あんず染織展

8月25日**土** ~ 9月3日**月**

出展／窪田孟恒

武捨亮一本彫展

開催期間中、木彫の講習会(アクセサリー又はレリーフ)があります。お子さんの彫刻刀で彫ります。

9月5日**水** ~ 9月28日**金**

出展／武捨亮一

岸田怜作陶展

10月1日**月** ~ 11月4日**日**

出展／岸田怜

秋の野草盆栽展

10月13日**土** ~ 10月21日**日**

出展／塚原ふじ子ほか

法善寺所有の軸、巻物、短冊などの常設展もお楽しみください。

冬季間は常設展となりますが、企画展を行うこともあります。(月の里俳句小中学生入選作品短冊展示など)

藍の奥深い色澤に魅了され

橋詰 清貫

振り返れば十九歳の日より
染職人一筋五十年を迎え、京
友禅の幅広い精錬された技
術を駆使し三十数年に亘り、
人々の着飾って嬉しそうなお
顔をおもいつつ創作してまい
りました。わたくし四十九
歳の折、初めて伝統藍染め技
法と出会い、天然藍染めの独
特な技術とその奥深い色澤に
魅了され、自身が持つてい
る「京友禅」の繊細な絵染め
の美と特色を組み合わせ独自
の表現をしようと京都宇治市

に（藍友禅工房）を開設いた
しました。そして、何より重
要な仕込みの瓶（最大で三石
五斗）を徳島県大谷焼特製の
大型陶瓶より取り寄せ、合わ
せて染料（すくも）の作成技
術を確立するため蓼藍植物の
特性と伝統藍染料の製造技術
を習得するために、栽培から
刈り取り乾燥まですべての工
程を試行錯誤しながら自身の
手で体験し、そして江戸時代
そのままに天然灰汁発酵建
で「京都友禅」の藍液を完成

させたのです。藍染めの歴史
は古く、正倉院の宝物の中に
も納められております。藍に
染められた生地は抗菌・防虫
効果が有り保存に耐える事が
出来るため、歴史的に価値の
ある物や文化的財産に多大な
価値を有するものとおもいま
す。長期保存させるために大
変重要な事は藍液を毎日管理
する事で、攪拌やペーパー調
整を行います。見た目以上に
体力を消耗する仕事であり強
い意志と忍耐力が必要とされ
ます。その後、作品一つ一
つを三十数回の染色工程を重
ね藍染めの多階層濃淡を京友
禅の技法で深く表現させ「藍
友禅染め」作品を幾千年の悠
久の時を超え存在させる事を
目標に私はすべてを「貫」

して創作しております。この
度、ご縁があり麻績観月苑に
於きましてわたくしの作品展
を開催いたします。麻績の皆
様に藍の素晴らしさ、美しさ
を是非ともご鑑賞いただきた
いと思い、思い出に残る作品
を取りそろえてお迎えいたし
ます。どうぞご期待の上、ご
来苑いただきますようご案内
申し上げます。

橋詰清貫略歴

- 京都府工業産業コンクール
入選・奨励賞・佳作等 受賞
- 一九九九 京都府現代の名工 受賞
- 二〇〇二 宇治市技能功労賞 受賞
- 二〇一〇 厚労省 現代の名工受賞
- 大阪住吉大社 個展
- 京都文化博物館個展
- 国立台湾工芸研究所 指導講師
- 国立台湾工芸研究所
- 台中県文化センター 師弟展
- 京都 東寺 食堂（国宝）個展
- 光明寺個展「法然上人ゆかりのお寺」
- 泉涌寺（歴代天皇家菩提寺）
- 知恩院個展 他





パート・ド・ヴェール

私をガラス作りに夢中にさせた技法

安藤 ひかり



作品を制作させてもらえる環境にいられることに感謝。北信州木島平村の大自然の中で暮らし、理解ある応援団に囲まれて。私にとって、作品づくりは、ご飯を食べることと同じ。自然に触れることも特別なことではなく、あたりまえのこと。作品は自分の日常の身の回りのことから生まれてきます。だからネタ切れはありません。ひとつ作ると次から次へと作りたいものが湧いてきます。制作する上で

一番大切にしていることは、「日々の暮らし」。山の上に住んでいて、のんびりとした感じですが、自然の中から色や形、喜怒哀楽、なんでもかんでもよくばって感じ取るようにしている、忙しいんです、私なりに。何かを作らずにはいられない、こんな暮らしがきつと一生続いて行くことでしょう。幸せな毎日です。

作品は、※パート・ド・ヴェールという技法で制作しています。私の作品は原型を粘土で





作ります。私の一番好きな素材である粘土で原型を作れることがパート・ド・ヴェールにひかれた大きな理由のひとつです。大学時代に陶芸を専攻していたこと、あらゆる形を成形でき、重量感のある柔らかな表現ができること、何より、手のぬくもりを直接感じる事ができる素材なので粘土を使っています。もう一つの理由は、大好きな「色」が限りなく使えること。ガラスは、透明く不透明もあつて色に限りがありません。このふたつの好きなことを満たしてくれるのがパート・ド・ヴェールでした。

実は、ガラスという素材は、

好きではありません。キラキラした感じ、冷たくて、鋭くて、緊張感があつて私には似合いません。しかし、パート・ド・ヴェールでは、ガラスでもいろいろな表現ができ、私らしい珍しいガラス、暖かみのある石のような砂糖菓子のような、そんなガラスもできるのです。パート・ド・ヴェール技法との出会いが、私をガラスに夢中にさせた…と思います。

今まで触れてきた素材の中で最も扱い難いのがガラスです。融けすぎてしまったり割れてしまったり、リスクも多いのですが、その分こんな表現の可能性を秘めた素材は無いと思います。そして、その扱いにくさが私にとっては魅力のひとつでもあります。飽きません。自分の思いどおりに仕上がった時はうれしさが100倍です。

この度、ご縁があつて観月苑さんで展示会をやらせていただくことになりました。もうすぐ50歳。何の苦勞もなく、すくす

くと生きてきた証。そんな作品をどうぞ、ご覧下さい。微笑みが生まれるような、そんな展示会ができますように…

安藤ひかり

【略歴】

一九八二年 東京都生まれ
一九七四年〜画家吉加江京司氏に師事（油彩画を学ぶ）
一九八四年 女子美術短期大学専攻科卒業（陶芸専攻）
一九九二年 東京ガラス工芸研究所卒業

【公募展】

一九九四年 現代ガラス展入選
(JAPAN GLASS ART SOCIETY)
一九九五年〜NEW GLASS REVIEW 17(2021)
(ニューヨーク・コニング美術館)
一九九六年 日本現代ガラス展奨励賞受賞

【個展】

一九九八年 ギャラリーエノモト（大阪）
一九九九年 柴山画廊（銀座）
二〇〇一年 グラスギャラリーカリス（青山）
二〇〇二年 ギャラリーカンディード（銀座）
二〇〇七年 ギャラリーアルテファクト（東京）
二〇一〇年 無門庵ギャラリー（二入展）（東京）
他

【展示会、他の活動】

二〇〇五年 ガラスのかたち（金津創作の森アート「コアギャラリー」）
二〇〇五年 ひとのかたち展（志賀高原ロマン美術館）
二〇〇五年 ワークショップ講師（徳島ガラス工房）
二〇〇七年 ワークショップ講師（金津創作の森、ガラス工房）
二〇〇八年 『手作りガラス電気炉工房』ほるぷ出版 協力

※パート・ド・ヴェールとは耐熱性のある鑄型にガラスの粉を敷き詰め、炉に入れて熔融成形する技法。
紀元前16世紀にメソポタミアで発明されたと言われているが、紀元前1世紀に吹きガラスが発明されると、量産ができないパート・ド・ヴェールは急速に途絶えた。

1880年代にアンリ・クロがこの技法を復興すると、ルネ・ラリックをはじめとする当時のガラス作家たちが数々のアール・ヌーヴォー様式のガラス器を制作・発表した。製法を秘密にしたため、当時の技法の大半は失われている。

1970年代に入り、復興された。その後、改良が施された技法が現在に伝えられている。

（ウィキペディアより引用）

作品について

「ひまわり」をモチーフとした作品を多く制作しています。子供の頃見に行つた「ゴッホ展」でヒマワリの絵に魅せられてから、絵画、陶芸、ガラス…とずっと作り続けています。力強く、たくましく、可愛らしくもあり、枯れ方も大胆で潔いところ、次へ続く種をたくさん残す所…まだまだ色々ありますが、わたしにとつて、とても興味深いネタのつきないモチーフです。

第十九回月の里俳句入選作品

一般の部

神田北童選

秀逸

白樺の精を宿して秋澄めり
向日葵に覗かれてゐる休み帳
ほろ酔ひのゆまり憚る良夜かな

石原 孟
古坂 房
吉田 長久

特選

蜘蛛やいまま旅籠の名を持ってり
半生をマンシヨンぐらし水を打つ

宮下 裕太
三輪 浅茅

佐藤文字選

秀逸

鈍角に落ちて散りじり深山滝
笑ふため生まれてきたる土雛
やはらかき雨音となり秋初め

丸山 迪子
吉田 長久
田中 竹子

特選

乗物の苦手な母や茄子の馬
来し方は銀の道かたつむり

萩久保八重子
滝澤 清

水上孤城選

秀逸

震災の希望あたるクロッカス
野点の座夏期合宿の中学生
低きより色づく雲や虫送り

丸山 迪子
野口なつみ
一之瀬文子

特選

帰省子へ山覗く部屋開け放つ
ほろ酔いのゆまり憚る良夜かな

宮下 早子
石原 孟

小林貴子選

秀逸

笑ふため生まれて来たる土雛
鳴かぬ日を取り戻すかにつくつくし
しみじみと野分のまたの日でありぬ

吉田 長久
石原 孟
小伊藤美保子

特選

山からの水とんとんとマト打つ
乗物の苦手な母や茄子の馬

百瀬 信之
萩久保八重子



①粘土原型

粘土で原型を作り、耐火石膏で型どりをする。



②色ガラス詰め

粉状に砕いたガラスに色粉を調合したものを水で湿らせながら詰める。



③型から外した状態

型ごと炉に入れ焼成した後、除冷。石膏型を割り、ガラスを取り出す。



④完成作品

研磨後、水差し「奥山」完成



耕月軒の降りつくばい

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にご
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX **0263-67-3933**
メール kangetu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金/1会 10,000円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



音楽ホール

コンサート、発表会などに
ご利用ください。
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



大寄せの間 (2F 40畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などに
ご利用ください。

■利用料金/半日 3,000円・1日 6,000円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴、神前結婚式などにご利用ください。

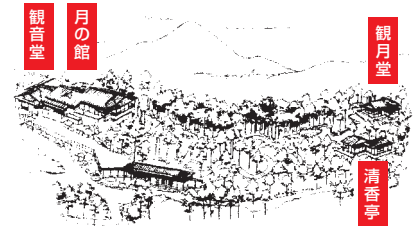
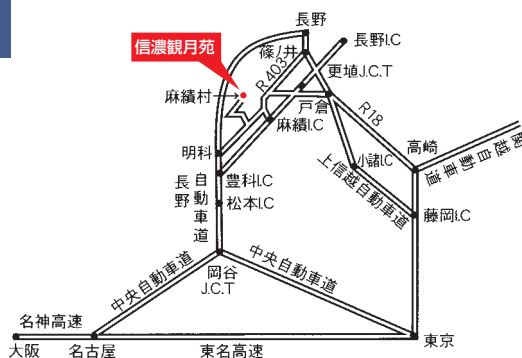
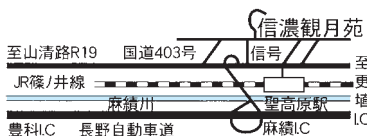
■利用料金/半日 5,000円・1日 10,000円



信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日
入場料 個人 高校生以上 300円
 小人 150円
 団体 20名以上 2割引
お抹茶 600円
点心 2,000円(3名様より。要予約)



表紙

今回もあんず染織作家窪田孟恒氏の絵です。

おだやかな四季の暮らしを願
いつつ…

麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

信濃観月苑のホームページ <http://omigoto.vill.omi.nagano.jp/kangetsu>